

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	北杜市企業のはたけ倶楽部の制度構築と社会実験による運用
対象地域	山梨県北杜市須玉町増富地域の遊休農地を中心に、北杜市(明野町、小淵沢町)の遊休農地
活動概要	<p>北杜市増富地域は、担い手の減少や高齢化により集落崩壊の危機が迫る地域である。そこで当NPOではこの地域において、構造改革特区認定のもと、NPOと地域、その他多様な組織が連携して都市農村交流を推進することにより、集落機能の維持と持続可能な農村開発を創る活動を実践している。平成15年の開始から約5年が経過した現在では、農村ボランティア制度の運用(地域外の若者等の登録200名)による耕作放棄地3haの開墾復活、都市部企業(5社)との連携による農場運営等々、多様な主体の連携による遊休農地の活用方法が徐々に構築されてきている。</p> <p>今申請事業では、この遊休農地活用の中でも、特に企業との連携による遊休農地活用手法を仕組みとして構築し、増富地域のみならず、北杜市内の遊休農地(649ha)の活用にも拡大発展させることを目指す。一方、北杜市では現在、リトリートの社という名称で、都市部の人々に北杜市の自然の中で長期滞在してもらおう施策を推進している。またその中で、ビジネスリトリートという形で、企業職員にも、長期滞在をしてもらおう施策を推進しているが、この申請事業においても遊休農地活用だけに留まらず、この施策とも連携し、企業職員に長期滞在してもらおう観光的メリットの実現も図ることを目指す。</p>
今年度の主な取組	<p>①北杜市企業のはたけ制度の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えがおつなげてと既に連携する都市部の企業や、CSRレポート等を発行している企業(あわせて約400~500社)にアンケートを実施し、遊休農地活用に関する企業の意向や動機、課題等を調査する。</li> <li>・上記アンケート結果をふまえて、北杜市、北杜市農業振興公社、増富地域再生協議会と連携して、北杜市企業のはたけ制度の仕組みを構築する。</li> <li>・企業のはたけ制度を構築するにあたっては、有識者の参加を得ながら、2回の検討会を開催する。</li> </ul> <p>②北杜市企業のはたけ倶楽部の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR企業等(400~500社)に対し、北杜市企業のはたけ倶楽部創設の告知、PRを行い、倶楽部加入を促す。</li> <li>・倶楽部加入の営業活動もあわせて行い、今年度の目標としては、20社の企業の加入とする。</li> <li>・北杜市企業のはたけ倶楽部HP、及びチラシ製作を行い、広く企業にアピールを行う。</li> </ul> <p>③北杜市企業のはたけ倶楽部のマッチングモデルツアーによる社会実験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業のはたけ制度、企業のはたけ倶楽部の有効性や課題の検証・把握等を行う目的で、企業のはたけ倶楽部加入企業の参加による、北杜市内の農業振興組織、あるいは農村活性化組織である、北杜市農業振興公社、増富地域再生協議会等の関係する組織・人や遊休農地等に、企業のはたけ倶楽部加入企業が視察等を行い、相互の情報交換を通じたマッチングの機会を創出する社会実験的イベントである。</li> <li>・この社会実験的マッチングモデルツアーの実施時、参加企業、ツアー受け入れ北杜市内組織の双方から、アンケートを実施し、その評価を、北杜市企業のはたけ制度、北杜市企業のはたけ倶楽部の運用等に反映させ、翌年度からの制度実行に備える。</li> </ul>

活動結果	<p>かつては、農村の農地はその地域の住民によって、守られてきたわけだが、過疎化が進み農地の維持が困難になり、その結果、現在、北杜市には、649haもの耕作放棄地が存在する。そこで、いままで、農地を維持してきたコミュニティの体系に加え、新たなコミュニティともいえる、農村に定期的に訪れることが可能な企業などと協働して、耕作放棄地の解消に努めようと活動した。この活動の成果としては、北杜市企業のはたけマッチングツアーに、北杜市の遊休農地活用に何らかの関心がある17社22名の参加があり、さらに、北杜市企業のはたけ倶楽部への加入が15社あったことである。このことから、地域外の企業を巻き込んだ、新しいコミュニティの創生へ向けての活動は、順調に進んでいるものと考えている。これによって、遊休農地の活用方法において、従来の農業生産のみならず、CSRや体験活動や観光等の新たな要素を取り込むことによって、遊休農地活用におけるさらなる新たなコミュニティの創生に発展する可能性がある。</p> <p>さらに、地域の遊休農地の問題を、地域の北杜市行政や農業者だけで検討するのではなく、NPO、企業、山梨県等が参加して一緒に検討するコミュニティ的存在が生まれてきている。</p>
当初予想していなかった効果	<p>地域の遊休農地を積極的に活用していこうとする機運が、参加した地域側、企業側ともに高まったことが想定以上の成果だと思う。それはおそらく、地域側にとっては、この活動を推進することによって、地域経済にも貢献するというイメージ、あるいはインセンティブが働いたからではないかと思う。現在、山梨県では、地域の雇用問題があり、新たな地域産業を作らなければならないという危機感もあり、これも背景としては大きかったのかもしれないと考えている。また企業側においても、食の安全安心の消費者ニーズの高まりや、CO2排出量のキャップがかかるといった企業側の社会的背景もあったからだと思う。山梨県においても、2009年度から、やまなし企業の農園推進事業という、企業による山梨県の遊休農地活用の事業に取り組むことになったが、この北杜市企業のはたけ制度構築事業に、山梨県として参加しその有効性を認識したことが大きいと推察できる。したがって、北杜市でのこの取り組みが、山梨県の先行モデルとして機能していくことになると思う。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>○はたけ制度検討会の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>○はたけマッチングツアーの様子</p> </div> </div>
応募団体名	特定非営利活動法人 えがおつなげて
リンク	<a href="http://www.npo-egao.net/">http://www.npo-egao.net/</a>
部局/担当者名	曾根原 久司
連絡先	0551-35-4563
推薦市町村名	山梨県北杜市